第７回美作市総合教育会議　議事録

１　日　時　平成３０年１０月２５日（木）午後３時３０時～午後５時

２　場　所　美作市民センター　３Ｆ大研修室（美作市栄町３５番地）

３　出席者　（敬称略）

（1）構成員

市長	萩　原　誠　司
教育長	大　川　泰　栄
教育委員	佐々木　勇
教育委員	須田多香子
教育委員	平　田　邦　義
教育委員	岡　本　美　幸

（2）職員

教育委員会	教育次長	山　名　浩　二
	教育総務課長	宮　前　聖
	学校教育課長	竹内龍一郎
	社会教育課長	船　曳　敬　吾
	教育総務課課長補佐	渡　邊　祥　子
	社会教育課課長補佐	皆木いそ美
	教育総務課総務係長	神　原　克　紀
企画振興部	企画振興部長心得	平　田　幸　春
保健福祉部	保健福祉部長	江　見　勉
	健康づくり推進課主任	吉　元　映　子
総務部	秘書課長	長　畑　真　吾
	秘書課秘書係長	黒　澤　勉

４　議題及び議事概要　　別紙のとおり

別紙

1　開　会

（事務局：長畑秘書課長）

ただいまから、第７回美作市総合教育会議を開催いたします。開催にあたり、萩原市長からご挨拶を申し上げます。

2　市長あいさつ

（萩原市長）

教育全般について、市長部局と教育委員会が連携を深める総合教育会議も７回目を迎えた。地域の柱として、学校だけでなく教育というものはあらゆる分野で関連する。学校教育が中心ではあるが、障がいのある方への配慮も含めて、社会全般に広がっており、特に社会福祉との関係の重要性が強くなっている。昔からあった典型的な問題である幼保問題はかなり片が付き、幼児期の教育がどこに行っても妥当、適正に受けられるという国民が求める姿になりつつある。かつては福祉分野が担っていた分野での学校との連携がさらに必要となっており、例えば児童福祉法の中にある児童相談所、子どもたちが窮地に陥ったときに避難させる施設、あるいは恒常的に使用する施設などがあるが、教育との関係で評価していかなければならない。対象となっている児童だけではなく、すべての子どもたちのために、福祉はもとより公安分野までも含め、いろいろな意味での行政各分野で、積極的に協力をとっていこうという形になっている。こういった中、教育大綱の作成に着手し、先ほどの背景に総合的な力を発揮できそうなものになっていたが、世の中は常に変化しており、新しい要素についてご議論をいただいて、教育大綱の見直しのご提案をいただきたい。今までより、もう少し総合性が膨らみ、さらに有機的に結びついて機能しそうな感じになっており、平素の皆さんのご協力、ご指導に対し、この場をお借りしてお礼を申し上げるとともに、そういった流れを拡大するために、機能的なものになるようご助言をお願いしたい。

（事務局）

続いて、教育委員会を代表して、大川教育長からご挨拶をいただきます。

3　教育委員長あいさつ

（大川教育長）

ご英断をいただいたエアコンについては、中学校では早速８月末の授業の開始から活用し、また小学校のほうも決断をいただきありがたく思っている。教育は学校教育が中心になるかもしれないので、ぜひ紹介したい事案がある。（資料配布）。今般、優良実践校として作東中学校が県内 10 校の中に選ばれ、集大成と呼べるようなものがお配りした作文に現れている。作東中の新免校長が本当に感激したということでこの作文をご紹介したい。この生徒は１年ほど前にパキスタンから日本にやってきた。片言の英語、そして日本語はまったくわからないという状況であったが、１年でここまで成長した。（別紙作文朗読）。意見文の発表で、１年間かけて覚えた日本語で一生懸命書いてくれた作文である。こうした教育が行われている学校が、市内にあることは本当にありがたく、こういった教育を進めいて行きたいので、いろいろな課題についてご議論いただき、よりよい教育、もちろん学校教育だけではなく、社会教育、市長部局所管のものもあるので、ともに進めていければよいと考えている。

4　協議事項

（事務局）
　それでは協議事項に入らせていただきます。以後の進行は、規定により、萩原市長にお願いします。
（萩原市長）
　協議事項はお手元の次第にあるとおりなのでよろしくお願いする。事務局から説明を申し上げるので、各委員の皆さんにおかれては遠慮することなくご発言をいただきたい。

(1) 障がい理解教育について
（萩原市長）
　協議事項(1)「障がい理解教育について」説明を求める。
（大川教育長）
　概要について、説明させいていただく。なぜこの議題を提案したかについてであるが、美作市は他市に先駆け、就学前のスクリーニング検査を３歳から行っている。せっかくのスクリーニング検査なのだが、結果を保護者が受け入れないということがある。母親が理解を示しても、父親、さらには祖父母の世代になるとさらに受け入れない。肢体不自由などわかりやすい障がいについては、子どもたちも一生懸命学んでいるが、知的障がいや発達障がいになると、子どもたちも保護者もなかなか理解が進まない。理解を進めましょうという認識があっても、いざ、わが子のことになると表に出さないということもある。障がい理解教育について理解を深めていく必要があるので、ご意見をお願いしたい。
（竹内学校教育課長）
　発達障がいのある子は幼稚園・保育園、小学校での園・学校生活で、時間の区切りによって戸惑うことがあり、支援を行っている。困った場面があると、他の児童から理解されない。年齢が上がるにつれ、カッとなる度合い、学力不振の度合いが大きくなり、学校生活そのものに不適合となり、不登校になるケースもある。こうしたことは保護者も周りに相談できないことから、長期化していることが現実にある。周りの子どもたちの理解が進まないことに加え、保護者も理解していないことが大きく影響している。
　特別支援教育、人権教育として、バリアフリー、車椅子体験などの学習を進めているが、知的・発達障がいを学ぶ機会は少ないのが実情。教室で同じ学年の子がともに学ぶ、その中で学習のつみあげをして行く中で学校教育は成り立つ。授業をわかりやすく提供することに加え、一緒に過ごすために障がいの理解を進めていく必要がある。特別支援教育体制の充実、教職員の指導力向上は進めているところだが、障がい理解を基盤にすえて今後取り組みを進める必要があると考えている。
（萩原市長）
　障がい理解とはどういうことと認識しているか。
（竹内学校教育課長）
　障がいそのものについての理解もあるが、子どもたちにとっては他者理解ということにもなる。発達段階ということもあるので、教職員研修も進めないといけない。
（大川教育長）
　発達障がいの研修は進めている。遅れていた部分もあるのでいろいろな障がい理解を進めている。もうひとつは、概念的なことになるが、意識改革が必要。市長の配慮で特別支援員を手厚く配置することができているが、手厚くした分、その人に任せてしまえばよいとも見受けられる。来年はそういう人を、特別支援学級ではなく教室に置くという形に枠組を変えてみたい。子どもたち相互の理解も進めないと

いけないので、発達障がいというものをひとつずつ教えていくことと、就学前から保護者への啓発が必要となると考えている。
(岡本委員)
発達障がいの理解には関係性の持ちやすい乳幼児期が重要。観察していく中で集団に目がいくのは２歳くらい、集団の中で課題が出てくる。そこで保育士が保護者支援をスタートさせる、そこがうまくいかないと小学生になっても問題が残っていく。
(萩原市長)
課題が見つかるのはよいことである。対応の入り口なのだということをしっかり強調してもらいたい。例えとしては簡単すぎるが、近視になってめがねを着用する場合と同じ。発見されて、対応方法が見つかってよかったという理解をする、それが障がいに対する理解の第一歩だと思うので保護者に伝えてもらいたい。もうひとつ、学校での理解のほかに一般社会での発言もしっかりしていかないといけない。場合によって社会の対応が、総論賛成各論反対、賛成だが自分のところではやってほしくないというところがある。美作市では他の田舎社会に比べれば、少なくなっているような気はするが、根強く残っている部分もあるので注意が必要。学校・教育現場、父兄だけではなく、おじいさんおばあさんも含め、社会全体で理解を拡大してもらいたいと思っている。
もうひとつは対応の方針、取説のように簡単には書けないが、わかっているものは明示すべき。仲間である子どもたちの対応、教師の対応など、役割に応じた枠組みで。特に子どもたちには指針を与えないとどう対応すればよいか困る。対応の仕方について周りの子ども、先生がわかっていなければ、その場に行けなくなって、不登校に追い込んでしまうことになる。
まだまだ発展途上の分野ではあるので、答えがわからないことを恥じることはない。個々のタイプで違う、だれだれちゃんにはこういう対応が必要だということを、子どもたちが理解していれば、ずいぶん変わってくると思う。すべてがクリアされるわけではないと思うが、少しでも救っていくという意味でやっていくしかない。障がいが見つかることで自立の可能性が高まる、この考え方を広く理解してもらいたい。
(佐々木委員)
美作市では、大変ありがたいことに３歳児からスクリーニングを実施してもらっている。要支援なのか、要配慮なのか二分することを考えないといけない気がする。要支援であれば、児童虐待や金銭面での支援につながるが、要配慮であれば様子を見ながらということになるのでは。
小学校に上がると母親が一人で抱え込んでしまう。舅・姑との関係、世間体を気にして厳しい。学校でも管理職がリーダーシップをとって動いていくことと、教職員の専門性の向上。どうやって向上させるかは研修であるが、繰り返しの学習が必要。支援の人が増えると、守備範囲を逃れたというような見方をする面もあるので、教職員の研修をしっかりしてもらいたい。健康づくり推進課などとも連携しないと効果的にはならない。
(萩原市長)
教職員の研修は大切な話で、誰に研修してもらうかであたりはずれがある。これはいいなというものが出始めてはいるが、よい情報があれば教えてもらいたい。研修は行うが、誰にしてもらうかについて熱心な議論と事前のチェックがあったほうがヒット率は高いと思う。

（竹内学校教育課長）
　研修については美作中学校には継続的に来てもらっている。人選の重要性はご指摘のとおりで、勉強しないといけないところである。研修の場で身につくこともあるが、子どもたちを指導している中で身につくこともある。
（萩原市長）
　教育の現場でのよい成果があればみんなに知ってもらえばよいが、そういう事例があるか。例えば先ほどの作文は外国の方との共存型の事例、他の学校の研修の材料となる。
（竹内学校教育課長）
　題材としてはある。
（萩原市長）
　具体的には。ぱっと思いつくところとして、勝田地域、勝田東小学校を中心に、顕著に効果のある先生がいるか、いれば何がよかったのかインタビューをして、その話をしてもらう。
（大川教育長）
　６年生のときに中学校の先生が参観した際、今度の中１は大丈夫だねと言っていたが、いざ担任をしてみると大変だったという事例があり、指導教諭が厳しいといわれながらも、いかにきちっと指導していたか、どういう形でやっていたかなども参考になる。教頭を中心にみんながノウハウを付けてうまくいきつつある学校もある。ある子の４年生までがうそのように５、６年になると成長し、どうやったのかと先生に聞いたこともある。そういう情報を収集していかないといけない。
（萩原市長）
　教職員に対しての研修はとても大切、市民向けにはＰＲ活動。あと、子どもたちに対してどうするか。「正しい理解をしなさい」は絶対にダメ、何が正しいのか言えと、ある程度のコアがないとすぐに反発される。
（平田委員）
　授業の中身のことだが、９月に体育祭・運動会を見たとき、同じように動いており、体を動かすときと通常の授業では違うのではないかと感じた。和気あいあいと子どもの人間関係もよく見えた。
（萩原市長）
　おっしゃるとおりで、体を動かすことも重要な学習の一つ。運動ができることは相当なものだと認識しないといけない。体育について学習障がいがないのなら、それは教科の問題であると認める。音楽、図工など一般教科でないものについても重要性を強調しないといけない。
　この議論は発展途上なのでまとめることができないが、今の話の中で、出発点らしきものがあれば事務局でピックアップしてもらいたい。

(2) カルチュラルオリンピアード（文化プログラム）の実施について
（萩原市長）
　協議事項(2)「カルチュラルオリンピアードについて」説明を求める。
（船曳社会教育課長）
　オリンピックの開催に合わせ、文化プログラムを実施することになっており、美作市の文化の振興ということでさまざまなことに取り組んでいる。これからは、身近なところで小さな公演など、参加しやすい形で、文化の底辺を広げて行きたいと考えている。
（須田委員）

伝承者の育成に力を入れるためにどんなことをするのか、すぐに思いつかないが、地域の環境の整備に力を入れるべきでは。
(船曳社会教育課長)
今は、獅子舞などに補助金を出している。
(萩原市長)
議論がやや整理されていないところがあって、平常やっている文化施策、これは補助を打ちながら伝統が途切れないようにするなど。宗教色があるが、安養寺のはだか祭りや当人際など、保存会のような形で、地元の方が一生懸命やらないと後継者は育たない。今はまだ、地元にコアになる方がいるが、いなくなった時にどうするかという問題はある。
この問題とは別に、オリンピックとは世界平和のためにスポーツと文化で相互理解を深めていこうというもので、その中で、市の文化施策だけ議論していたら、カルチュラルオリンピアードと言うものが市民に伝わらない。そこを伝える努力をしていかないと、オリンピックムーブメントで市が参画しているのだと、微力ではあるが美作市が世界の平和に貢献している思いがあるのだということを付け加えないと、普通にやっている会議と変わらなくなる。そこを注意して議論を進めたほうがよいと思う。
(皆木社会教育課長補佐)
地域の文化財や伝統を次世代にどのようにつないでいくかが重要な課題と考えている。文化の持つ創造性を包括的に社会作りに生かして行きたいので、補助金などの金銭的な支援だけではなく、後継者不足の地域も多いため、子どもたちが地域に戻ってくるような循環型の文化施策というものを支援していきたい。
(須田委員)
新しい学校に着手するよりも、地域の学校を充実させて、現在の学校に魅力を感じるようにしていくことが大切である。
(皆木社会教育課長補佐)
地域の学校の魅力についてですが、カルチュラルオリンピアードは４つの基本事項がある。日本文化の再認識と継承・発展、これはレガシーの部分になる。次世代育成と新たな文化芸術の創造、これはチャレンジの部分。世界への発信と国際交流、これは調和の部分。全国展開によるあらゆる人の参画および地域の活性化、これが多様性となる。学校教育の中では伝統芸能継承事業ということで、５・６年生を対象にレガシーの部分をしっかりと学習してもらっている。2020 教育プログラムの中では、障がい者スポーツを絡めて、障がい者への理解、共生社会の実現を学ぶ、まさしく調和や多様性の部分を学習している。音楽鑑賞事業では、市民の皆さんに本格的な音楽を聞いてもらったり、各地で小さな演奏会を行う地域交流プログラムにより、地域での理解者、支援者を増やすチャレンジの部分にも取り組んでいる。４項目に沿った社会教育事業も進めているので、その中で、双方向の学びにつながるものとしている。学校についてもそういった魅力のある学習ができるよう努めている。
(萩原市長)
カルチュラルオリンピアードと学校との大きな絡みはあるのか。
(皆木社会教育課長補佐)
レガシーの部分で伝統芸能鑑賞事業、教育プログラムでは調和と多様性の部分を学習してもらっているので、この柱を元に社会教育課では学校と連携した学習も進めて行きたい。
(萩原市長)

これを契機にして、子どもたちが平素は触れることがない日本文化の源泉らしきものに触れてはいる。子どもたちの反応はどうだったか。
(皆木社会教育課長補佐)
雅楽の演奏会では見たことのない楽器とシンセサイザーの音源も使って現代調のアレンジをしたところ、とても楽しく興味深く聞けたとの感想をたくさんいただいている。
(大川教育長)
びっくりしたとか、珍しい楽器を自分でもやってみたかった、どうやって音が出ているのだろうかなど。シンセサイザーの音が加わるとだんだんと顔が変わり興味を持っていた。
(平田委員)
大原公民館の館長がしっかりやってくれており、何十年も前の8mm ビデオが出てきて、何度も見させてもらった。館長が居て推進してくれると、そこに行く機会も増えるので、そういった点も充実してもらいたい。
(萩原市長)
情報の発信ができるようになっている。そのビデオは私も見せてもらった。

(3) 公共施設の長寿命化について
(萩原市長)
協議事項(3)「公共施設の長寿命化について」の説明を求める。
(宮前教育総務課長)
平成 24 年に笹子トンネルの崩落事故があり、これを契機に国土交通省において、平成 25 年 11 月にインフラ長寿命化基本計画が策定された。その計画において、地方公共団体では、公共施設等総合管理計画を策定することとされている。総合管理計画に基づき、個別の施設ごとに対応方針を定めるということで、文部科学省においては、学校施設の長寿命化計画として作成するよう示されている。本市においては、第2次ベビーブーム世代の増加に伴い、昭和 40 年代後半から 50 年代にかけて建設された校舎が数校ある。それらが更新時期を迎えつつあり、老朽化が進んでいる現実がある。学校施設の長寿命化計画により、平成 31 年、32 年度の2ヵ年で施設の改修あるいは改築(建替え)を検討して行きたい。対象となる学校施設は、校舎・園舎のほか、体育館、給食センターを含むことになっている。未来を担う子どもが集う場所、地域住民にとっては生涯学習の場、災害時には避難所になる学校施設の老朽化対策を考えて行きたい。
(萩原市長)
公共施設等総合管理計画には、文科省の指針からは外れているが、先ほどの公民館などが入ってくる。当市としては公民館の充実のために拠点化をしながら、全市で4～5館程度に人員配置をする計画も併せて作っている。集会所レベルのものは無理があると思っているが、巨勢小学校跡の利用が多いため公民館的な位置づけにすることも考えており、教育委員会にお願いしている。
校舎・園舎のほか、体育館、給食センターについては、具体的にどこが問題なのか。
(宮前教育総務課長)
昭和 40 年代に建築されている校舎は、勝田中学校、美作第一小学校、英田小学校がある。耐震化工事は行っているが、第一小学校は平成 14 年の耐震化で 20 年近くが経過している。50 年スパンでスクラップ&ビルドで建て替えが進んでいるが、それを 80 年に延ばして行く動きもある。岡山市役所の例では改修よりも改築のしたほ

うが、将来コストが安くなり、バリアフリーの促進ということで改築を選択しているので、そういうことも含めて計画をしたい。
(萩原市長)
岡山市役所の場合、合併もあり政令市にもなったということで職員を収容しきれなくなったという背景がある。岡山市役所の例をあげると、小学校の統合の問題を意味しているのかと取られかねない。言葉遣いを丁寧にしてもらいたい。今のところ統合する話は全く出ていない。
(須田委員)
耐用年数を過ぎているのでできれば改築をお願いしたい。
(平田委員)
新しい学校と古い学校では、特別教室の格差が激しい。普通教室については差がないかもしれないが、第一小に行った際40人が一杯一杯で狭く感じた。普通教室も机がＢ判からＡ判対応に変わり、大きくなりびっしり並んでいる。
(萩原市長)
いろいろなことを一緒に考えておかないと、重要なポイントになりつつあるのが、子どもたちが大きな荷物を持って行くのはだめではないか、教材を学校に保管すべきではないかとの議論がある。おそらくその流れになると思われ、教材をどこに置くのか頭の痛い問題である。
(大川教育長)
美作中は教室の後ろのロッカーでは足りないので、廊下に別のロッカーを設置している。
(萩原市長)
子どもたちの学校での学習、家での学習のやり方も含めて重要な問題なのだが、文科省がそうやりますからと言ってもすぐに対応できない問題であることをご認識いただきたい。

(4) 美作市教育大綱に基づく施策の取組状況について
(5) 平成30年度版の美作市教育大綱について
(萩原市長)
今日の本題の美作市教育大綱について、協議事項(4)、(5)を一括で議題としたい。
(吉元健康づくり推進課主任)
教育大綱に基づく市長部局について説明させていただく。(以下、健康づくり課所管分の取組について資料説明)
(萩原市長)
大変評判がよいので、より充実していただきたい。
(平田企画振興部長心得)
資料に基づき簡単に説明をさせていただく。(以下、企画振興部所管分の取組について資料説明)
(萩原市長)
今の課題を前提として、教育大綱の改正案について若干話をしないといけない。改正案について説明を求める。
(山名教育次長)
平成30年度版の案だが、大きく変わった点はＰ１の美作市の教育理念の中に、福祉と教育の連携による先進的障がい児施策の推進、を盛り込んでいる。あとの事項については、平成29年度に行った事業を踏まえて訂正を行っている。
(平田企画振興部長心得)

目次の４の（２）のスポーツ医療看護専門学校の誘致の「誘致」の部分について、本文に併せて「開設」に訂正をお願いする。
（萩原市長）
委員の皆さんからの、ご意見ご提案をお願いしたい。
（佐々木委員）
知・徳・体のバランスの取れた子どもを育成するにはどうしたらよいか、教育委員会だけではなく市長部局と連携し、協働しながら考えて行かないといけない。地域を愛する子どもをいかにつくるか、これが我々の大きな目標、目的ではないかと思う。いかにするかはここに書いてあり、難しいかもしれないが、どれくらいできたかの評価もしないといけない。
（平田委員）
林野高校の魅力を高めて生徒を集める取組をしている。市内に高校があるのとないのとでは全然違うので存続させてもらいたい。佐用高校が大原、西粟倉から受け入れをすることになれば、交通の便がよいので、よりいっそう林野高校の魅力を高めて行く必要がある。
（萩原市長）
この前、県の教育委員会の方が来られ、今後の高校のあり方について話を伺ったが、パステル系の話で、大丈夫とは言っていないがダメという世界ではない。地域独自の力でさらに魅力を上げることは可能だと思うので、ご意見を胸に刻み取り組んで行きたい。
（須田委員）
支援学校の誘致に関して、場所の問題であるとか、高校からではなく小・中というニーズはないのかといった問題。あの場所に誘致すれば、図書館などが活用しにくくなるとの声も聞いている。
エアコンは設置してもらっているが、既存の学校の建物についてもう少しご検討いただきたい。
（萩原市長）
それはそれとして、問題の種別が違うので。
（岡本委員）
特別支援について、最初の理念から始まり、最後も特別支援で終わっており、力を入れていることはわかる。そうなると、地域理解ということが重要になり、高校も理解がないと推進できないので、しっかり声を聞いてもらいたいと思う。
（萩原市長）
こういう問題が契機になって理解が進んだということがわかったり、対応策ができて理解が進む。ありがたいことに美作市では平成18、19年ころから、誕生寺支援学校の分校誘致の話があり、県内でも障がいの発生というか自覚の頻度が高く、そういう背景があるのでじっくりと市民の意見を聞く必要がある。反発もあるが発達障がいの発見度が高いというのは、ほとんどの理由として理解が進んでいるのだと思う。市の特徴としてしっかり捉えて行きたい。
いろいろと書いてあるが、今の意見などを総合的に勘案しながら、事務局で適正な形で取りまとめていく。文章的にここはこうあるべきだということがあれば、秘書課のほうに何らかの形で提示いただければ、整理をしてお示ししたいと考えている。
市長部局にとっても、教育委員会にとっても、今後の指針になるわけだが、一点だけ申し上げると、今日の議論で時間を割いた、障がい理解、カルチュラルオリンピアード、公共施設の長寿命化、１番は入っているが、これらがあまり反映されて

いない。
（大川教育長）
　項目別という形で入っている。長寿命化はこれからのことである。P7、8 のあたりはカルチュラルオリンピアードに関連し、就学前の施策は障がい理解につながる。
（萩原市長）
　いずれにせよ、今後の日本の教育あるいは社会において、男女の差別、障がい者への対応、こういったものを徹底的にノーマライズしていく、そのことがまちの魅力にもつながることを常々申し上げている。わかったと言っても、各論を出すと、いいことだけどうちではだめよ、そこのところに潜んでいる差別感みたいなものをなくしていかないといけないと思っている。非常に難しい問題ではあるが前向きに考えて行きたい。
（須田委員）
　江見商業跡地を利用するというお考えはないのか。
（萩原市長）
　その議論はもともとあり、県立誘致の最初の候補地であった。ところが平成 21 年に災害が起きて、安全性が不安になっている。7 月の豪雨のときも水に浸ったし、難しい話となるが、吉野川沿いの土手の根の一部が洗掘されているのではないかという問題、さらに井堰をどうにかしないと水位が落ちないということを県と話しているが、井堰を取るとさらに洗掘の問題が出てくるので、安全な土地にするまでかなりの時間を要する。当時、災害のあった後、江見商業の案は一旦消えて、粟井小学校が廃校になるからということで協議もしたが、結局県が財政的に厳しいということで、正面からその話はしないがいろいろと理由をつけてできないことになっている。土地があればそこでやればいいという議論は、江見地区では無くなっている、危険という認識を持っている。

(6) その他
（萩原市長）
　その他の項目で何かありますか。
（山名教育次長）
　こちらは特にありません。
（長畑秘書課長）
　事務局からも特にありません。
（須田委員）
　学校の誘致に関しては、看護学校が募集人員に対して少ないとの市民の声がある。それでも支援学校をやりたいというお考えか。
（萩原市長）
　これは絶対。私たちのまちの精神文化の支柱になると考えている。
（須田委員）
　多額の市税を投じてもか。
（萩原市長）
　詳しいことは申し上げないが、財政面での試算では、運営経費については国・県からの支援、いいことをさらに進めるのであれば市の負担が必要となる。観光施設には使ってもいいが教育施設、福祉施設には使わないという話はピンと来ない。財政が困っているというのであれば別であるが、相当改善してきている。介護保険料も下げた、タクシーの利用補助も進めている、これで赤字になっているかといえばそうでなく引き続き改善している。

（平田委員）
　関連で、今は市長部局でやられているが、事務の流れからいつか教育委員会に回ってくるのだと思うがどうか。
（萩原市長）
　それはどちらでもよい、決める必要も無い。関与としては県教委が教育委員会経由でということを強く望んでいる。
（平田委員）
　教育委員会にすっと回すということはまだ考えられていないのか。
（萩原市長）
　県とのつながりでいえば、教育委員会事務局は何らかの対応が必要になる。委員会において引き受ける、受けないということを、委員の方々で何かやってもらうということはないと思う。

5　閉　会

（事務局）
　長時間にわたり熱心なご議論ありがとうございました。これを持ちまして、第７回美作市教育総合会議を閉会いたします。